発　行　所
公益社団法人自衛隊家族会
〒162-0845
東京都新宿区
市谷本村町5-1
(TEL)03-5227-2468
(FAX)03-5227-2473
購読料１カ月一部110円
ウェブサイト
http://www.jkazokukai.or.jp/
メールアドレス
jkazokukai@jkazokukai.or.jp

主な記事

◇防衛力の抜本強化、着実に進捗	1面
◇回想「令和6年度遠洋練習航海を終えて」	2面
◇特別寄稿「自衛隊員の処遇改善について」	3面
◇「自衛官の人的基盤強化①」	8面
シリーズ企画	
家族会長等奮戦記	❶面
自衛隊を動かすMC（第11回）、美佐の新国防論、きずな	❷面
米国事情（第61回）	❸面
歌壇・俳壇、健康の扉	❻面
シニアの鉄人「少子化傾向反転に資するシニアの生き方」	❼面

防衛力の抜本的強化、着実に進捗

自衛隊初の統合作戦司令部が誕生

戦後最も厳しく複雑と云われる安全保障環境。この状況に対応し、国民の命と平和な暮らしを守り抜くための防衛力の抜本的強化が進んでいます。防衛省・自衛隊は3月24日、平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降その必要性が指摘されてきた常設の統合作戦司令部（司令官・南雲憲一郎空将）を新設しました。また同じ24日付で、統合作戦司令部の他、自衛隊海上輸送群および海上自衛隊大湊地区隊の新編を含む令和6年度の部隊改編が行われています。なお、3月31日、8兆4748億円の防衛関係費を含む令和7年度予算が成立。自衛官の処遇改善等の人的基盤強化も含めた防衛力の抜本的強化がより一層進むことになります。

統合作戦司令部の新設（JJOC Web）

統合作戦司令部の新設

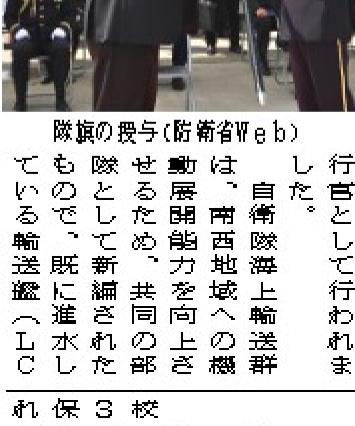
3月24日、防衛省大講堂において、統合作戦司令部の新編行事が行われました。式典には、中谷元防衛大臣、歴代の防衛大臣、増田和夫防衛事務次官、吉田圭秀統合幕僚長などの防衛省・自衛隊の高官、米インド太平洋軍司令官サミュエル・パパロ海軍大将の代理で出席した在日米軍司令官スティーブ・ジョスト空軍中将、オーストラリア軍統合作戦本部長ジャスティン・ジョーンズ海軍中将の他、在京各国の武官、そして隊員の家族を招いて行われました。

司令官の南雲空将はあいさつで「我々は『誠の心』を源として、ひとつ、一身の利害を超えて公に尽くすことを誇りとし、ことに臨んでは危険を顧みず、身をもって国民の負託に応える。ひとつ、戦わずして勝つ。戦わば勝つ。そのため切磋琢磨し、組織力を鍛え、厳正な規律と精強さを追求する。ひとつ、仁愛を以て人を大切にし、明るい気風と相互信頼の中に健全なる組織をともに育む。この『一源三流』を心のよりどころとして、国防の任務に当たってまいります」と述べました。

また、中谷防衛大臣は、記者会見で「統合作戦司令部の新設により、自衛隊の運用に関して、平素から部隊を一元的に指揮できるようになり、事態の状況や推移に応じた柔軟な防衛態勢を、より一層迅速に構築することが可能となる。また、統合による作戦や同盟国・同志国の司令部との情報共有、運用面での協力を一元化できるために、統合運用の実効性を向上するものと考えている」と述べています。

自衛隊海上輸送群の新編

3月24日、海上自衛隊呉地区で、自衛隊共同部隊として新設された「自衛隊海上輸送群」の新編行事が、陸上自衛隊中部方面総監（総監・遠藤充陸将）を執行官として行われました。

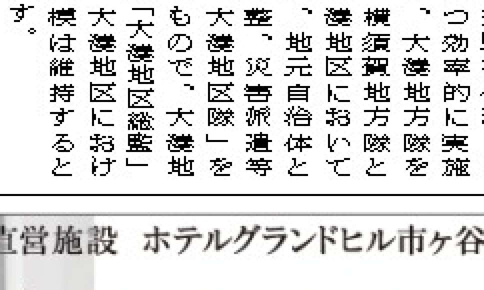


隊旗の授与（防衛省Web）

自衛隊海上輸送群は、南西地域への機動展開能力を向上させるため、共同の部隊として新編されたもので、既に進水している輸送艦（LCU）「にほんばれ」（基準排水量2400トン）、輸送艦（LSV）「ようこう」（基準排水量3500トン）と合わせ、令和9年度までに中型級船舶（LSV）2隻、小型級船舶（LCU）4隻、機動舟艇4隻を取得する計画とされています。

海自大湊地区隊の新編

また同日、海上自衛隊大湊基地で大湊地区隊の新編行事が行われました。北方から太平洋にかけての沿岸の警戒監視任務をより迅速かつ効率的に実施するため、大湊地方隊を改編し、横須賀地方隊と統合。大湊地区においては後方支援、地元自治体との連絡調整、災害派遣等を担う「大湊地区隊」を新編したもので、大湊地方総監は「大湊地区総監」となり、大湊地区における定員規模は維持するとのことです。



海自大湊地区隊の新編（海幕提供）

令和7年度事業計画などを了承

令和6年度第4回理事会を開催

3月11日、令和7年度第4回理事会がグランドヒル市ヶ谷で開催され、理事28人、監事2人、運営委員などが出席しました。会議では、令和7年度の（公社）自衛隊家族会事業計画をはじめ、各議案が審議され、すべて承認されました。なお、議事に先立ち増田好平会長があいさつし、自衛隊家族会を取り巻く状況について述べました。

増田好平会長のあいさつ

会議は増田会長が議長となり、冒頭で増田議長は理事会定足数の確認を行った後「本日も充実した議論をお願いしたい」と述べました。

その後、①令和7年度自衛隊家族会事業計画②令和7年度分担金③収支予算書④資金調達及び設備投資の見込み⑤令和7年度定期総会の開催⑥地域協議会長人事の職員給与規定の改正について審議。それぞれの議案が了承されました。

令和7年度自衛隊家族会事業計画では「『自らの国は自ら守る』という防衛意識の普及・高揚を図るとともに、（中略）自衛隊員が誇りと自信を持って任務にまい進できる環境を作るべく家族支援協力等の防衛基盤の確立・強化に寄与する」とされています。

具体的には、本部が主催する「防衛講演会」を岐阜県家族会と広島県家族会が担任して実施。防衛情報紙「おやばと」の購読率向上のため「新ステップアップ作戦」の3年目として、各県家族会は自らの目標を設定し、その達成を目指すとしています。

理事会参加者の集合写真

また、防衛省・自衛隊が行う家族支援に対する協力については「省統一の協定締結を受け、隊友会と連携しつつ各県の協力支援事業を支援するとともに、各地域の要望に沿った支援実行の可能性を調整。また、増員される非常勤職員に係る対応を行う」としています。

さらに「創立50周年に向けた事業の検討」については「家族会の歌」の作成、「公益社団法人自衛隊家族会50年史」の作成・配布、そして「その他ふさわしい事業を行う」としています。

また、会員や隊員家族がさまざまな悩みや疑問などを軽易に相談できる自衛隊家族会「問い合わせ窓口」を引き続き運営するとしています。

なお、令和7年度の定期総会は、6月17日（火）に開催することで了承されました。

報告事項

会議の後半では、以下の報告が行われました。

- ●第30回自衛隊の活動支援基金管理運営委員会報告
- ●基本財産の運用報告
- ●代表理事および業務執行理事の業務報告

質疑応答と連絡事項

質疑応答の時間では、参加者から各県家族会の実情を踏まえた質問などが出され実りある質疑となりました。最後に、連絡事項が共有され、理事会は無事に終了しました。

家族支援協定を防衛大臣と

自衛隊家族会、隊友会が締結

「家族支援協定」の締結

3月14日、中谷元防衛大臣と増田好平公益社団法人自衛隊家族会会長、岩崎茂公益社団法人隊友会理事長は、「家族支援に対する協力に関する協定書」を締結しました。

防衛省では、家族支援に対する協力は、これまで各自衛隊と関係団体との間で締結された協定に基づき実施されていたが、新たに策定された「国家防衛戦略及び防衛力整備計画」において、自衛隊員の家族および関係団体等との連携を含めた家族支援施策の拡充が盛り込まれ、改めてその重要性が示されました。これを契機として、陸海空の各自衛隊のみならず防衛省・自衛隊の全ての隊員等を対象とし、後顧の憂いなく安心して任務に専念できる環境づくりの一環として、家族会および隊友会と省統一の家族支援協定を締結したとしています。

なお、協定書では「家族支援の協力内容」について、「隊員等家族の安否確認に関すること」「その他、隊員等家族の状況に応じ必要な支援に関すること」とされています。

また「当面は大規模災害等の発生を念頭に置いて協力するものとし、今後、検討に応じ支援の範囲を拡大する場合の協力については協議の上、規定する」としています。

中谷防衛大臣は締結式で「防衛省・自衛隊にとって隊員家族とは、我が国防衛力の中核たる隊員を献身的に支え続けるかけがえのない存在です。自衛隊員が後顧の憂いなく、安心して任務に邁進するためには、隊員家族への支援が極めて重要であり、その環境を確保するためには、自衛隊家族会および隊友会との連携・協力は必要不可欠と考えており、更なるご協力を期待しております」と述べています。

一人一人の努力が抑止力強化に直結

卒業生に石破茂総理大臣が訓示

3月8日に防衛医科大学校（福島功二学校長）で、3月22日に防衛大学校（久保文明学校長）で、それぞれ卒業式が行われ、日本の防衛を担う幹部候補生が誕生しました。

防衛大学校卒業式

任命・宣誓式に臨む石破総理（官邸Web）

3月22日に卒業式を迎えたのは、防衛大学校本科第69期生学生386人（留学生23人を含む）と研究科学生84人（留学生7人を含む）です。

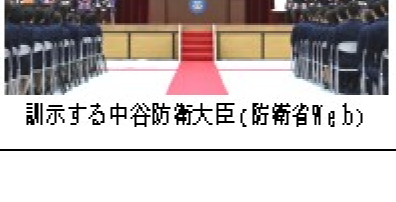
卒業式は、石破茂総理大臣、中谷元防衛大臣出席の下で実施されました。この中で、石破総理大臣は「防衛力の強化は、ただ自衛隊の装備を増やせば良いのではありません。防衛力の最大の基盤は人であります。諸官一人一人の存在が防衛力の中核であり、諸官一人一人の努力が我が国の抑止力の強化に直結するのであります」「厳正に規律を保持し、ハラスメントなどは一切許容しない、現代にふさわしいリーダーシップを発揮すること、そして、服務の宣誓に忠実に国民の負託に応えること。これは、幹部自衛官として組織を率いる諸官に求められる不可欠の素養であります。強い覚悟と責任感を持って任務に邁進していただきたい」「これからの日本が、将来に向けて何をなすのか、そして次の時代に何を残すのか、そのために諸官は何をすべきか、常に問いかけながら、自衛官として、人として、大きく成長してくれることを願います」と述べました（訓示は5月号に掲載予定）。

防衛医科大学校卒業式

3月8日に卒業式を迎えたのは、医学科第46期医学科学生79人と看護学科第8期学生（看護学科自衛官候補看護学生71人、技官候補看護学生42人）です。

式典には中谷元防衛大臣ら防衛省幹部が出席。石破総理大臣はビデオメッセージで、その門出を祝いました。

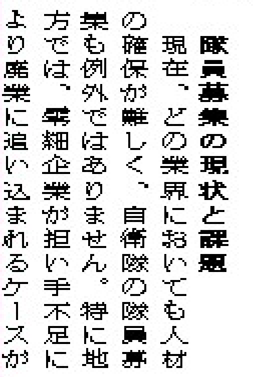
その中で石破総理大臣は「任務を遂行する自衛隊員の生命・身体を救う、それが自衛隊衛生の崇高な役割であり、さればこそ最も大事なのであります。医師および看護師たる幹部自衛官となる皆さんは、国防の最前線に立つ自衛隊員にとって、最後の拠り所であります。日本国の独立、そして国民の生命を守る自衛隊にあって、自衛隊員の命、健康、それを守るのが諸君であります」と述べました。



訓示する中谷防衛大臣（防衛省Web）

家族会長等奮戦記 (95)

家族会の広報官として



道北自衛隊家族会
会長　桑畠　保夫

全国の家族会は地域の自治会と同様に会員の減少が続いています。道北家族会も例外ではなく、会員の高齢化や任期制隊員の退職による親の退会が進んでいます。また、自衛隊OB会員と一般会員の間に意識の差も生じているようです。

一般会員の多くは、自衛隊の業務や任務について十分に理解しておらず、関心が薄いことが一因と考えられます。東日本大震災や能登半島地震など、自然災害が頻発する中で自衛隊が果たしてきた救援活動の重要性も、次第に忘れ去られつつあります。

近年、自衛隊内部の広報や雑誌、テレビなどで自衛隊の活動が紹介されてはいますが、その情報が十分国民に浸透しているとは言い難いのが現状です。機密情報の制約はあるものの、自衛隊の存在と役割を広く伝える広報活動の強化が求められています。

私は長年、民間企業で営業職として多くのお客様と向き合ってきました。その経験を活かし、「自らの国は自ら守る」という防衛意識の高揚を図る橋渡し役として、家族会の広報官を務めていきたいと考えています。会員や市民の皆さまに働きかけ、その輪を広げていくことが私の使命です。

隊員募集の現状と課題

現在、どの業界においても人材の確保が難しく、自衛隊の隊員募集も例外ではありません。特に地方では、零細企業が担い手不足により廃業に追い込まれるケースが増えています。

一方、ロシアによるウクライナ軍事侵攻、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘、中国のアジア進出、北朝鮮のミサイル発射など、国際社会では力による現状変更の動きが続き、わが国を取り巻く安全保障環境は決して楽観視できません。国民の間でも不安が高まり「安心・安全」を求める声が強まっています。しかし、少子化の影響もあり、隊員募集は年々厳しさを増し、広報官は困難な状況に直面しています。

防衛費の増額に伴い、処遇改善の施策が進められていますが、依然として十分とは言えません。人材不足により計画の実行が滞り、装備を整えても運用できる要員が確保できない状況が続いています。

こうした中、当会では昨年から試行的に、私と広報官が学校を訪問し、隊員募集の協力を依頼する取り組みを始めました。学校は多くの人材を輩出する場であり、家族会の人脈を活かした募集活動が有効であると考えています。

今後は、同窓会や学校役員、学校関係者、公職歴の多い会員、自衛隊協力団体と情報を共有し、経験を活かした継続的な募集活動を展開していきます。また、近々、各地区に対し、緊急の対応策としてこの活動を広める方針です。

優れたリーダーには率先垂範が求められます。多くの人脈を持つ会員が地道な広報活動を続けることで、安心と平和を守るための優秀な人材を発掘することに尽力していきたいと思います。

強靭な精鋭部隊、第2師団

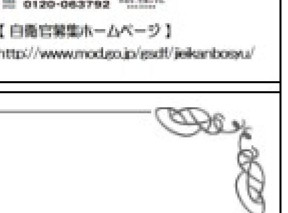
道北地区は、四季折々の美しい自然に恵まれた地域ですが、冬はマイナス20℃、夏は30℃にも達する厳しい環境でもあります。この地に拠点を構えるのが旭川の第2師団です。

第2師団は、北は稚内・名寄、南は富良野・上富良野、東は紋別・遠軽、西は留萌まで広範囲におよぶ地域を担当し、新潟県を上回る広大なエリアを守備範囲としています。稚内からは、かつて日本の領土であった樺太（現在のロシア領）がすぐ目の前に見えます。

ある師団長が駐屯地を巡回した際、「隊員の士気が違う。粘り強い隊員が多い」との感想を述べられました。確かに、北海道出身の選手は過去のオリンピックにおいても優れた成績を収めています。これまで獲得した金メダルは10個にのぼり、その大半が道北出身者によるものです。

レスリングで5個（うち自衛隊体育学校出身の中田茂男氏を含む）、女子柔道で3個、昨年の北口榛花選手によるやり投げで1個という結果が示すように、道北の厳しい自然環境が育んだ強靭な精神と肉体が、優れたアスリートや隊員を生み出しているのです。

足腰の強い、忍耐強い選手は道北特有の風土です。「北の守り北鎮精鋭部隊がここにあり!!」と誇りたいと思います。



YouTube
自衛官募集チャンネルにおいて動画公開中！
【隊員の日常（幹部自衛官）】
【自衛官募集ホームページ】
http://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/

防衛省共済組合直営施設　ホテルグランドヒル市ヶ谷
婚礼紹介キャンペーン
ご婚礼を予定されている方をご紹介してください

ホテルグランドヒル市ヶ谷公式HPよりご紹介いただいた方が
挙式をお申し込みされた場合、ご紹介者様・挙式予定者様へそれぞれ、
下記のいずれかひとつを進呈いたします。

★ご紹介者様への記念品
（10,000円相当）
JCB ギフトカード
ホテルグランドヒル市ヶ谷利用券

★挙式予定者様への記念品
（10,000円相当）
JCB ギフトカード
当日プレゼント（花束）

【記念品進呈条件】
①ご結婚予定者入力完了後の契約に限ります。
②ご紹介者は本人を除きます。
③お二人様（ご新郎・ご新婦）でお一人様の紹介とします。
④ご紹介者がお二人以上の場合は、先着を優先とします。
⑤婚礼エージェントご利用以外とさせていただきます。
※なお、記念品はご紹介者様にお選びいただきます。
お申し込みはこちらから→

HOTEL GRAND HILL ICHIGAYA
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町4-1　https://www.ghi.gr.jp　E-mail：salon@ghi.gr.jp
ブライダルサロン直通　TEL 03-3268-0115 ［受付時間］平日 10:00～18:00 土日祝 9:00～18:00［定休日］火曜日